

ご挨拶

目標に向かって 行動するまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和八年の初春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年、国内においては、海外における紛争や異常気象などの影響を受けた輸入品の価格高騰のほか、コメの供給不足による米価高騰など、様々な品目の物価高騰が続き、政府において、総合経済対策が講じられたところであります。また、全国的にクマの出没被害が多発し、当町においても鳥獣被害対策実施隊の活動により九十五頭を捕獲していただきました。

只見町においては、ユネスコエコパークが平成二十六年の登録から十一年余りが経過し、九月にはMAB計画国際調整理事会において、エコパークの登録継続が決定しました。

四月には、日本自然保護協会から福島県内初となるネイチャープロジティブ自治体認証を受けたところであり、自然環境保全の取り組みが大きく評価されました。

また、町の最上位の総合計画であります只見町振興計画は、町民の皆様に参加いただきながら策定を進めてまいりました。まちづくりの基本理念を「ともに生き、ともに想い、ともに創る 自然首都・

只見」とした新たな第八次只見町振興計画がスタートいたします。

今後、「目標に向かって行動するまちづくり」を念頭に、この計画に即して政策を進めてまいります。が、主だったものを申し上げます。

一つ目は、子どもの教育であります。人財育成は持続可能なまちづくりの根幹であります。子どもたちの将来と町の未来を見据え、町内三小学校の統合を含めた子どもたちの新しい教育環境づくりを進めてまいります。

二つ目に、只見町と三条市を結ぶ国道二八九号八十里越道路の暫定開通がいよいよ目前に迫り、開通により町民のくらしや町の経済発展に大きく期待されるところであります。観光客への対応や町民のくらしの支援を目的とした只見駅前整備を進めてまいります。

また、本年は福島県挙げての観光キャンペーンが予定されており、JR只見線の魅力にも期待が寄せられております。

三つ目に、農業基盤整備であります。県営ほ場整備事業と合わせ只見地区に公設民営のライスセンターの建設を進めております。遊休農地の増加を抑止し、効率的な農業経営を支援してまいります。四つ目に、森林の活用であります。これまで進めてまいりました新

ボイラーが、いよいよ本格稼働となります。人工林の活用を進めながら、伐採跡地にブナの木を植栽するなど広葉樹の混交林化を進めてまいります。里山林の活用により、鳥獣害対策にも有効であると考えております。

この他、町民のくらしを支える町の医療・福祉について、これからのより良い福祉の里の在り方を協議継続してまいります。

そして、近年の異常気象による災害対策として、新たに桑折町・塙町と相互応援協定を昨年暮れに締結したところでありますが、栃木県那須町とも協定締結を予定しており、有事への相互協力体制を日頃の交流から整えてまいります。

年頭にあたり所信の一端を申し上げましたが、改めて町民の皆様、並びに町議会のご理解をいただかなければ何ひとつ成し得ません。今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆様にとりまして良き年でありますようご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



新年の

開かれた議会を目指して

只見町議会議長 佐藤 孝義



明けましておめでとうございます。

只見町議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、輝かしい初春をお迎えることと心からお慶び申し上げます。また、日頃から議会活動に対し、温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、近年にない豪雪となり、2月上旬には積雪が3メートルを超え、災害救助法が適用されるなど、町民生活に大きな影響を与えました。

夏は、一転して猛暑となり、観測史上1位の37・1度を記録。そして、北海道や東北地方では、クマによる人的被害が相次ぎ、記録的な猛暑の影響が指摘されています。

当町においてもクマの目撃情報が多く寄せられましたが、人的被害が発生しなかったことは不幸中の幸いであり、日々、献身的に活動いただきました「鳥獣被害対策実施隊」並びに関係者の皆様へ感謝を申し上げます。

さて、昨今の国際的な動向は、エネルギー価格や物流の課題をはじめ、気候変動といった地球規模の課題など、世界情勢は複雑さを増し、私たちの暮らしにも多くの影響を及ぼしています。特に、トランプ大統領のアメリカ・ファー

ストの考えに基づく相互関税政策は、他国との関係や世界経済の安定性に多大な影響を及ぼしており、国際的な経済成長の鈍化が懸念されています。

日本国内では、高市早苗氏が自民党総裁選で勝利し、日本初の女性首相が誕生しました。また、大阪・関西万博が開催され2900万人を超える来場者が訪れるなど、明るい話題もありました。一方で、少子高齢化が進行し、医療・介護体制の逼迫や深刻な人材不足など、多方面にわたる影響が懸念されている「2025年問題」は、一段と社会課題が表面化し、今後、日本の社会構造は大きな転換期を迎えるものと考えています。

当町においては、町の最上位計画である「第八次只見町振興計画」が昨年十二月に策定されました。今後は、この計画に沿い「誰もが心豊かに 安心して住み続けられるまち」を目指し、議論を重ねてまいります。

長年の祈願であった国道二八九号八十里越道路は、今年の秋から来年夏頃の開通を目指し工事が進められています。この道路の開通により、地域環境も大きく変わるものと考えており、駅前複合施設の活性化など、待ったなしの対策が求められています。また、認定

こども園や、小学校統合に係る施設整備など、将来のまちづくりを見据えた公共施設の活用についても、町当局と活発な議論を重ね課題の克服に努めて参ります。

議会においては、全国的に議員のなり手不足が問題となっており、当町においても、令和6年の町議会議員選挙「無投票」の事象を深刻に受け止め、現在、「議会議員の定数と報酬に関する調査特別委員会」を設置し検討を重ねており、今年度中には結論が出されるものと考えております。

二元代表制の一翼を担う議会としましては、町民を代表する議事機関として、執行機関を監視すると共に、政策提言を行うなど、互いに善政を競いながら町政の発展に努力して参ります。また、「住民が参画できる、開かれた議会」を推進するため、議会報告会や一般会議などを通じて皆さまの声を聞き、集落の活性化や福祉の向上など、皆さま方の負託に応えられよう、全力で、その責任を果たしてまいりますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた年となりますよう心からご祈念申し上げます。まして、新年の挨拶といたします。